

# 2003.11.16

## 絵本学会 NEWS No.17

発行：絵本学会

発行日：2003年1月16日

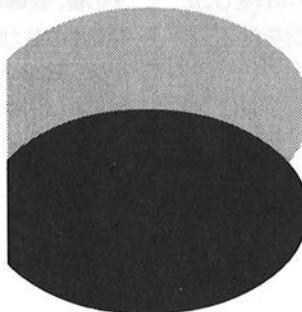
編集：絵本学会事務局・広報委員会

事務局：〒187-8505 東京都小平市小川町1-736

武藏野美術大学芸術文化学科今井研究室内

FAX: 042-342-5191

<http://ehongaku.musabi.ac.jp>



絵本フォーラム'02「再度、昔話を考える」報告

第2部 談話サロン「太田大八の部屋」の報告

第三部のまとめ

絵本学会雑感・学会設立を呼び掛けた者として

伝言板

インフォメーション・絵本関係展覧会・イベント

事務局からのお知らせ

## 絵本学会

### 絵本フォーラム'02 「再度、昔話絵本を考える」報告

生田美秋

今年8月15日(火)、世田谷文学館において絵本学会と世田谷文学館の共催で絵本フォーラム'02が開催されました。絵本フォーラムは参加資格を学会員に限定しない開かれた催しで、通算6回目となります。今回はテーマを「再度、昔話絵本を考える」に設定し、ゲストに児童文学者の松谷みよ子さん、絵本作家の太田大八さんをお迎えしました。第一部の松谷みよ子さんの基調講演の後、第二部は、「太田大八の部屋・絵本作家の立場で考える」(問題提起と司会は藤本朝巳さん)、「川西美沙の部屋・グリムの昔話絵本を考える」(問題提起と司会は川西美沙さん)、「岩崎真理子の部屋・日本の昔話絵本を考える」(問題提起と司会は岩崎真理子さん)の3つの分科会に分かれてのディスカッション、第三部は全体のまとめとして各分科会の問題提起者に対する参加者の質疑応答を行いました。第一部と第三部の司会は生田が担当しました。最初に今回のフォーラムのテーマ設定の意図、松谷みよ子さんの基調講演の要旨、次に第二部分科会の内容、第三部のまとめを掲載します。

今回の大会のテーマの設定には大きく二つのねらいがありました。一つは昔話絵本研究が新たな段階を迎えようとしており、到達点と課題を整理してみたいということ、もう一点は研究の進展にもかかわらず昔話絵本の出版、昔話絵本と読者をめぐる状況が必ずしも良好とはいえない今日、あらためて昔話絵本の意義を確認し、この現状を打開するのには何が必要なのか理解を深めたいという点でした。昔話絵本をめぐる実践的な問題については第三部のまとめに譲るとして、理論面についてフォーラムを企画した企画委員の認識を整理しておきます。

#### ●昔話絵本研究の現状

1970年に刊行された松岡亨子さんの『昔話絵本を考える』は、昔話絵本に関する問題提起の書として画期的な意味を持ちました。松岡さんと東京子ども図書館の人達はフェクス・ホフマンの『七つのから

す』の昔話絵本としての問題点を具体的に検討し次の結論を導き出しました。松岡さんたちは昔話絵本の意義を認めながらも「昔話絵本が昔話から奪うもの」として、

イ、お話しでは物語を語る視点(主人公)自体が動くのに対し、絵では画家の視点から物語(主人公)が動いていくのを見ることになる。

ロ、絵が前面に出てきて、視角以外のイメージが後退する。

ハ、お話しは刻々と動いていくものであるのに対し絵はどこか一点で止まっているもの。

二、ことばからは受け手がめいめい独自のイメージをいだくことができるが、絵本からは画家のイメージを受けとることになる。

以上四点をあげ、絵本になりにくい昔話の存在すること、安易な昔話絵本の創作、特に出版社の昔話絵本刊行の姿勢に警鐘を鳴らしました。

これに対し、昔話絵本の代表的な作家赤羽未吉さんは、「私の絵本ろん」で、『七つのからす』をホフマンの「センチメンタルな体質によるマイナス面がでた作品」とし、「この最も不出来と思われる一作品を分析して昔話を絵本化するという一般的で根本的な問題にすることは、いさかムリではなかろうか」と反論しました。児童文学者の松居友さんも『わたしの絵本体験』で、松岡さんたちの「昔話絵本を通じて受けとめると、その影響が強いただけに、画家のイメージをおしつけることになる」というのは思いすごしにすぎないとし、「昔話にしろ、名作にしろ、画家がどんどん視角化絵本化して子どもに伝えるといい」と主張しました。松居さんは、『昔話の死と誕生』『昔話とこころの松谷さんは、民話は民衆が語りついてきたものであり、民衆のものであるという立場を鮮明にした上で、各地に伝わる昔話の原話(聞き書き)から自分が良い、面白いと共感できる話をさがして絵本のイラストとしたこと、昔話の独特の語り口やリズムを大切にしてきたことを強調されました。お子さんやお孫さん、文庫に来る子どもたちが絵本にどう反応するかも必ずそれぞれの絵本の紹介の中でお話になりました。松谷さんは最後に宮川ひろさんの「語りは心の母乳です」という

言葉を紹介し、子どもは両親の語りを聞いて過ごすうちに心を豊かにし、強くしていくものだと講演をしめくられました。

(いくた・よしあき 世田谷文学館・運営委員)

## 第2部 談話サロン「太田大八の部屋」の報告

藤本 朝巳

この部屋は、絵本作家であり、この学会の前会長でもある太田大八先生をお招きし、昔話絵本について考えました。会の進め方としては、「絵本作家の立場で考える」と題して、運営委員の藤本朝巳が司会をし、たくさんの昔話絵本を描いてこられた太田先生に興味深い話を伺いました。

まず、藤本が昔話とは代々、語り継がれてきたものであり、本来は「語り」であり、語られるときにのみ存在する「時間の文芸」であるという基本的な考え方述べました。その上で、柳田國男の「昔話とは、『昔々ある処に』という類の文句で始まり、話の区切りごとに必ずトサ・ゲナ・ソウナなどのことばを付けて、それが又聴きしたものであると示しながら、最後は『めでたし、めでたし』のようなことばで締めくくるものということばを紹介しました。柳田は、「昔話は口と耳とで世に流布していた」とまとめています。これらのことばから、口承されてきた昔話は、文字による文芸ではなく、語り手と聞き手の間に共有されて存在する「語りの文芸」であるということができます。ところが、昔話絵本は、本来「語りの文芸」である昔話を「読む文芸」にし、さらに、「時間の文芸」である昔話をイラストレーションで目に見えるように「視覚化する文芸」であるといえます。ですから、昔話を絵本にする際には、いろいろ配慮する必要があり、難しい問題が起こることを述べました。

これらのことばを受けて、太田先生は、昔話を絵本化するということは物語をイラストレーションで描くことであり、絵本作家の立場から言えば、調べる楽しみがあるとおっしゃいました。例えば、描こうとしているその昔話が、いつの時代の、どこの地方の話で、その当時、道具にはどんなものがあり、家の造りはどうなっていたなどということを調べるのは、画家としての楽しみであるということです。太田先生は、つい最近、沖縄に伝わる昔話「わらしへ長者」を絵本になさったそうで、その際、時代的なことをどう表現しようか、沖縄の色をどう表現しようかと、調査をしてお書きになったそうです。またさまざまな工夫をして、内容・表現をファンタスティックにお書きになったそうです(この作品は近々出版されるそうで、大変楽しみにしています)。

続いて、藤本が昔話絵本『やまなしもぎ』(平野直再話、太田大八画)を紹介し、その場で開き読みました。そして、この昔話の構造や語りの様式を簡単に説明した上で、昔話「やまなしもぎ」を、太田先生



基調講演：松谷みよ子氏

がいかに解釈、工夫し、見事に描いておられるかを解説致しました。特に、イラストレーションの色合い(初めは薄めに、昔話の盛り上がりに合わせて、だんだん色合いを濃いめにし、鮮やかさを増してある、また必要な道具を、この昔話に合った色で適切に表現してある)、三人の子どもの表情の使い分け、恐ろしい魔物を不思議な形態に仕上げ、またおどけた表情で描いてある点、最後に昔話そのものにはないが、結末を、元気になった母親と三人の子どもたちの幸せそうな様子で描いてある点など、イラストレーションをお見せしながら紹介致しました。その後、会場のみなさんからも、熱心な質疑が出され、応答があり、昔話絵本の魅力について楽しい語らいを持つことができました。太田先生は、「絵本と絵本学会の将来についても含めて、『絵本とは何であるか』」という問い合わせに対し、「絵本は子どもの人間形成に大切な要素を持っている。絵本は子どもの感性を豊かにし、絵本を通して、子どもたちの世界が広がる」とおっしゃいました。さらに、子どもの本を広めるために、ご自分でも情報を伝え合うための運動(wave)を展開なさっていることを紹介されました。先生は、文庫や読み聞かせの活動をなさっている方々が同じ意識を持って、子どもの本の活動が世界全体に広がっていくことを願っているとあつく語って下さいました。

&lt;/

者に人生を考えさせたり、子どもの批判精神を育てる目的もあるようです。昔話絵本には、型を重んじたもの、すぐれたイラストレーションをつけて、その昔話の時代や文化を伝えようとするもの、また、民衆の語り継いできた昔話本来の笑いや皮肉の精神を表現したものなど、さまざまなものがあつていいと思います。)

会の終了後、太田先生を囲んでのサイン会が催され、楽しい雰囲気のもとに、有意義な会は閉じられました。(文責 運営委員 藤本朝巳)

### 第三部のまとめ

#### 生田 秋美

第三部は分科会の報告者とゲストの太田大八さんが舞台に上がり、会場の参加者の質問に応える形で進行しました。活発な質疑が交わされました。今後も重要な検討課題だと思われる点に限って記しておきます。

##### ●昔話絵本における差別的表現と保守的な思想の問題

以前にも『シナの五にんきょうだい』をめぐって絵本における思想の問題がするどく問われたことがありました。昔話は民衆が数百年から語り継いできた伝承文芸ですから、そこには性差別や民族差別、大人の価値観のおしつけ、現状肯定の思想など歴史的な刻印を色濃く残していることは否定できません。『ももたろう』は戦争中に、国策を推進する道具として使われた経験を忘れるわけにはいきません。面白いから、子どもが喜ぶからといって無自覚に昔話絵本を読み続けることには慎重であるべきです。既に歴史的使命を終えている絵本か、文芸として価値を保っている絵本か、個々の昔話絵本の具体的な検討が必要です。絵本は子どもの幼児期に繰り返し読まれることによって意識形成、人格形成に深く関与するだけに昔話絵本のすぐれた面だけを強調し、昔話なら何でもいいという姿勢はさけなければならないでしょう。

##### ●語りか昔話絵本か

松岡享子さんたちのように、昔話は口承文芸でありあくまで語りが基本、絵本化はふさわしくないと主張する人が今も少なくありません。昔話の語りか昔話絵本かではなく、それぞれが昔話の有効な表現の形成と理解すべきではないでしょうか。昔話絵本を読み聞かせれば昔話の語りは必要ないといふものではありません。フェリクス・ホフマンはグリム童話が語りの文芸であることを踏まえて、子どもにはまず童話を読んで聞かせその後自らの絵本を与えたといいます。

松岡享子さんの『昔話絵本を考える』の否定的な側面ばかりを強調してきましたが、この本が日本の昔話絵本研究の上で果たした大きな意義を認めないわけにはいきません。昔話の語りの長所と短所、絵本の

長所と短所は当然あります。分析の対象が一作品のみであった点は問題だったとしても、この本には昔話絵本研究に限らず視角表現としての絵本の研究上重要な意味を持つ指摘が数多く含まれています。

##### ●昔話絵本のテクストはどうあるべきか

昔話絵本のテクスト、再話については二つの考え方があります。語り継がれてきた話をそのまま活字化すべきだという意見と、その昔話が一番言いたいことや考え方、思想を大事にすれば、その表現については変えてもいい、むしろ芸術的な資質を高めるために再話者が昔話を脚色していいという意見があります(後者が木下順二さんの「民話の会」)。どちらがいいか難しい問題です。方言を生きるべきか、現代の子どもたちにも分かるように標準語とすべきか、議論は続いています。しかし、数多く出版されている筋そのものや残酷な場面を安易に書き換えた昔話絵本に対しては、昔話の語りの法則や語りの構造の特色、残酷な場面の意味など昔話に対する正しい理解にもとづいて絵本化してほしいと思います。

##### ●昔話絵本の出版と読者をめぐる状況

グリム童話の絵本やアジアのすぐれた昔話絵本の翻訳が目をひく反面、日本の昔話絵本は元気がありません。作家、画家ともに新しい書き手が育っていないという気がします。書店では特に中・小型店で安易な内容、イラストの昔話絵本のシリーズや、昔話を題材としたアニメーション絵本が目立ちます。読者をめぐる状況も厳しく、都市化、少子化、核家族化の進行によって昔話を知らない大人が増え、伝承は難しくなっています。あらためて昔話絵本を再認識し、現代にふさわしい伝承の方法を考える必要があります。

昔話絵本には、絵本に共通の意義と昔話絵本に固有の重要な意義があります。一つは昔話絵本はほかのどんな子どもの絵本よりも喜ぶこという事実です。単純明快でハッピーエンドで終わるストーリー、事実を積み重ね徐々に盛り上がる構成、繰り返しの面白さ、テンポの良い語り口など昔話絵本は面白い物語の基本的な要素を満たして、それが子どもの心の働きにぴったり合致し、子どもをひきつけるのです。幼い頃に昔話絵本を通して物語の面白さやすぐれた絵の魅力を実感することは、その後の読書や文学、美術の扉を開く契機ともなります。次に昔話絵本は、生きていくための知恵や勇気、自然観や世界観など人として最も基本的なことや生きる指針、子どもが成長する道すじ、困難から抜け出る解決法を示しています。三点めは、最近特に注目されている昔話が子どもの精神的自立に果たす役割についてです。昔話絵本は、子どもたちを楽しませながら、同時に自分自身についての目を開かせ、無意識に働きかけて子どもの自立を促すことが、心理学の研究で明らかになっています。少子化や核家族化、都市化の急激な進行、過



岩崎真理子の部屋



川西美沙の部屋

保護と放任、父親の不在と母親の過度な影響力など子どもを困る家庭環境の悪化によって、現代は子どもの精神的自立が難しい時代と言われており、昔話絵本の意義は益々重要になっています。昔話絵本研究の進展が、昔話絵本に携わる作家や画家、編集者、読者をめぐる状況の改善につながることを期待したいものです。

(いくた・よしあき 世田谷文学館・運営委員)



第三部の様子

## 絵本学会雑感 学会設立を呼び掛けた者として

中川素子

1997年5月11日に絵本学会が設立してから、すでに5年半がすぎようとしている。この6月、第6回絵本学会大会から新たな活動が始まるにあたり、学会設立を呼びかけた者として、これまで振り返り、今後のことを考えてみたい。

私が「Pee Boo」23号で学会を呼びかけたのは、1996年6月のことであるから、学会設立までに優に1年かかったわけだ。呼びかけた後、最初に事務局を引き受けてくださることになっていた大学が都合によりできなくなり、計画は頓挫したかと心配したが、声をかけた武藏野美術大学の今井先生が快く引き受けてくださった。絵本学会が活動を続けられたのは、煩雑な仕事を地道にこなしてくださった事務局のおかげである。

学会設立準備委員会は今井先生、安曇野ちひろ美術館の松本猛氏、それに私で始め、絵本作家の太田大八氏にも加わっていただいた。学会はそれほど簡単にできたわけではなく意見の違いがあったが、その違いが現在の学会を豊かにしたと考えている。たとえば「Pee Boo」26号に太田大八氏が「いすれにせよ、学会というのは学者、研究者、専門家による論理の構築と発表の場であり、画家である小生はやや場違いの感をいなめない」と書かれているように、太田氏は学会でなくフォーラムを願われた。しかし、このフォーラムの考えは、決して学会と対立するものではなく、絵本学会を楽しい存在してくれたと思う。企画委員会で企画したフォーラムへの一般の参加者も多く、結果、会員数もふえたのである。

他にも、絵本を「表現としてみる」という設立主旨に賛同し発起人になってくださった方々、また、私の呼びかけ文を掲載してくれた多くの新聞社の協力により、第一回大会を盛況のうちに迎えることができた。構成員の立場、専門分野、絵本への視点の当て方などさまざまな違いがあっても、それらを包含するものとしての絵本の魅力が、駒形克己氏デザインの赤と緑の学会マークによく表れているように思う。

さて、今後の活動に当たり苦言も呈さなければならない。役員会でもよく話題になるが、研究部門が活発ではないことだ。それは一人一人の研究者自身の問題であって、フォーラムなどの活動のためではない。年の論文集への投稿数も少ないし、大会時の口頭発表も決して質が高いとはいえない。昨年の大会時には私が最高年齢の発表者とからかわれたが、駆け出しの研究者だけでなく、誰もが率先して発表することが必要だと思う。

特に残念だったのは、未整理であっても斬新だと思う若い研究者の発表がなかったことだ。「御意見ありがとうございます」といった形式的なやりとりでなく、激論になってもいいから問題提議をなすものであってほしいし、そういう意見をつぶさない学会でありたいと思う。私自身は50代になるまでどの学会にも所属せず、初代絵本学会会長の吉田先生に「正解でしたね」といわれたが、絵本学会が決して権威主義にならないよう願っている。何故なら絵本こそ、権威主義とは違う領域にあるものだからだ。

研究の在り方もさまざまな可能性が考えられる。2000年、東京都写真美術館で絵本学会、アニメーション学会、漫画学会設立準備会の合同シンポジウムが開催されたが、同時に学生の絵本作品を展示することができた。

それ以来、大会時に絵本作品の展示をしているが、第5回大会では小野明、土井章史両氏により絵本作品の講評も行われた。制作による研究という方法も、成果が期待できるだろう。

今、私はアメリカなどで行われているブリコラージュという研究方法に興味を抱いている。興味のある方は、絵本学会の本を出版して下さっているフィルムアート社の「キッズ・サバイバル」などを読んでいただきたい。日本ではなかなか受け入れられないだろうが、慣例的な論文の書き方でなく、絵本学でもこういった試みが出てこないともML上の会話による情報を楽しみにしている。また、私の元へ中国の美術大学から絵本について講演依頼があり、絵本の視覚表現性について問い合わせのあった韓国の先生ともメールのやりとりをしている。

研究会は学会とは別組織ではあるし、中国や韓国も個人的なものではあるが、絵本学会を核にして有機的に増えていく活動や交流から絵本の魅力が広がり、そのうち学会として国際シンポジウムを開くことなども可能になるのではないかと思う。絵本学会も皆さん一人一人の生き生きとした考えによってこそ発展することと思われる。役員や企画に積極的に加わり、新しい風を吹き込んでいただければと思う。

中川素子（理事）

# 伝言板

## 「占領期の子どもの本・文化」第一回セミナー開催のお知らせ

空白ではなかった戦後7年<1945-1952>の子どもの本・子どもの文化

第二次世界大戦後の日本の絵本の歴史は、1953年の「岩波の子どもの本」シリーズ、1956年の月刊絵本「子どものとも」の刊行から始まっていますが、絵本の出版は実は敗戦直後から再開され、1952年までにすでに膨大な量の絵本が出版されていました。日本の戦後史資料の宝庫、アメリカ・メリーランド大学図書館「ブラング文庫」に所蔵される、絵本、漫画、読み物など約8000タイトルに及ぶ児童書がその事実を明瞭に物語ってくれます。

2003年新春に、東京の国際子ども図書館でその「ブラング文庫」の一部が展示される予定ですが、戦後60周年を迎える2005年に、関西でも「ブラング文庫」の展示の実現を目指す動きが始まりました。

日本の人々が未来への希望に燃えていた大戦直後の子どもの本・文化を検証し、空白の時代といわれてきた時を埋め、歴史の中に位置づける試みに向けて、第一回セミナーを開催いたします。

絵本学会会員の皆様のご参加を心より願っております。

○日時：2003年2月2日（日）10:15-16:30

○場所：大阪府立国際児童文学館 講堂

○参加費：1500円

○申込方法：郵便振り込みでお願いします。

・口座番号：00920-5-186138

・口座名称：戦後60周年子どもの本・文化プロジェクト

□主催：戦後60周年子どもの本・文化プロジェクト

□協力：(財)大阪国際児童文学館

□問い合わせ先：正置友子（まさきともこ）

Tel/Fax 06-6832-3873

◇プログラム◇

☆基調スピーチ

三宅興子さん（絵本学会会長・梅花女子大学文学部教授）

☆子どもの文化 一戦前・戦中・戦後

畠山兆子さん（梅花女子大学文学部教授）

☆未刊絵本『ウシカフムスメ』と刊行絵本『うしかひむすめ』

大橋眞由美さん（和歌山信愛女子短期大学非常勤講師）

☆記念講演 日本戦後史資料の宝庫「ブラング文庫」—その出会い、資料調査、そして現状—谷暎子さん（北星学園大学文学部教授）

☆交流会

◆特別展示◆

『占領下<1945年-1952年>の子どもの本』

大阪国際児童文学館は、1945年-1952年に出版された子どもの本を数千点所蔵しています。今回そのほんの一部ですが、館のご協力を得て展示いたします。ぜひご覧ください。（セミナー当日のみの展示です。）

絵本関係  
展覧会・イベント

information

## ●世田谷文学館

「椎名誠すんがずんが展」

小説家、編集者、写真家、映画監督 いくつもの顔をもつ椎名誠。流通業界誌の編集長を経て、「さらば国分寺書店のオババ」で「スーパーイッセイ」なる新分野を開拓し、衝撃的デビューを飾ったのが昭和54年。以降、「岳物語」をはじめとする私小説、「アド・バード」などのSF小説、「パタゴニア」「にっぽん・海風魚旅」をはじめ国内外の旅エッセイを著し、「本の雑誌」編集長をつとめながら、おなじみの「赤マント」シリーズや「むは」シリーズなどの日常&読書エッセイ、さらには自身で撮影した写真に文を添えた『旅の紙芝居』などの写真エッセイ集や絵本にいたるまで、多方面で活躍しています。また、映画監督としても四万十川や沖縄、モンゴルなどでロケを敢行、全国を巡業しての興行も成功をおさめました。

無人島で流木を焚き火にキャンプを張り、映画を撮りながらモンゴルの草原を馬で疾走し、激辛の味を求めてアジアを旅し、南の島の海浜で発見した新しいスポーツを普及……。日本国内と海外の山や海、北極圏の氷河から大陸の砂漠、そして夜更けの都市をすんがすんがと踏みしめて歩いてきました。その圧倒的行動力はとどまることがありません。その行状記も、あるときは旅エッセイとして、またあるときは私小説のかたちで、つぶさに読者に届けられています。

本展では、原稿、取材メモ、旅先で撮影した写真などのほか、作品に登場する思い出の品々や、旅先で使った道具、影響を受けた本など、秘蔵資料約250点を大公開。世田谷生まれで、挑戦的旅をライフワークにして歩きつづける椎名誠の「圧倒的行動力」を分解、多角的、立体的に紹介します。

会期：平成15年1月11日（土）～3月30日（日）

開館時間：午前10時～午後6時（入場は午後5時30分）

休館日：毎週月曜日（1月13日は開館、翌日休館）

主催：世田谷文学館 後援：世田谷区教育委員会

観覧料一般400円（320円）、高校・大学生300円（240円）、小学・中学生200円（160円）、65歳以上200円（160円）。障害者割引あり。（ ）内は20名以上の団体料金。

## ●ちひろ美術館

「コレガ長新太ナノヨ展」

2002年11月20日（水）～2003年1月31日（金）

柔軟で斬新な発想の絵本を発表し続け、日本の絵本にナンセンスの分野を確立した画家、長新太。本展ではちひろ美術館のコレクションを中心に、長新太の最新作を含めた近作と代表的な絵本原画や漫画などを展示し、子どもから大人まで幅広いファン層を持つ彼のナンセンス絵本の魅力に迫ります。

主な展示作品：

『わたしのうみべ』（佼成出版社2002）『よわむしらいおん』（徳間書店2002）『はなねこさん』（ボプラ社2002）『あるけあるけ』（こぐま社2000）『くもの日記ちよう』（ビリケン出版2000）『ゴムあたまポンたろう』（童心社1998）『キャベツくん』（文研出版1980）『つきよ』（教育画劇1986）ほか原画83点、資料多数。

開館時間：午前10時～午後5時

（GWと8月10日-20日の開館日は午後6時まで）

休館日：月曜日（祝日は開館、翌日休館）  
年末年始 12月28日～1月1日（1月2日から開館）  
展示替のための臨時休館あり（展示予定はこちら）  
住所：〒177-0042 東京都練馬区下石神井4-7-2  
TEL 03-3995-0612 テレホンガイド 03-3995-0820  
交通案内：  
<西武新宿線>上井草駅下車徒歩7分  
<JR中央線荻窪駅より西武バス石神井公園駅行き(荻14)>  
上井草駅入口下車徒歩5分  
<西武池袋線石神井公園駅より西武バス荻窪駅行き(荻14)>  
上井草駅入口下車徒歩5分  
大人 800円／中学・高校生 500円／小学生 300円  
団体（20名以上）、学生証をお持ちの方、障害者手帳をお持ちの方とその介添の方、65歳以上は100円引、視覚障害のある方は半額となります。（なお、二重割引はいたしておりませんのでご了承ください。）

### ●安曇野ちひろ美術館

冬期休館中（12/1～2/28）開館期間は3/1～11/30です。

### ●武井武雄の世界 イルフ童画館

武井武雄作品集「第4集」来春発売！

ご好評を頂いております、「イルフ童画館オリジナル作品集」の第4集が、来春発売されます。今回は、イルフトイズ・おもちゃ・トランプ・カルタなどをまとめた一冊となっております。お楽しみに！

#### 3F 展示室【武井武雄絵本原画展 ピノキオ】

2002年11月29日～2003年2月5日

1968年にフレーベル館から発行されたキンダーおはなしえほんシリーズの中の1冊、「ピノキオ」の原画18点を公開。

#### 【日本童画の父 川上四郎展】

2002年11月29日（金）～2003年1月29日（水）

※最終日は午後5時閉館です

※12月31日（火）～1月1日（水）はお正月休みのため、休館です  
※1月2日（木）は休館日です

#### 2F 展示室「川上四郎展」

川上四郎の絵からは、かつての日本のどこにでもみられた牧歌的な風景や農村の子どもたちの様子が優しい色彩とともににつたわってきます。又当時の田舎の暮らしを知らない子どもたちにも美しい日本の風土と自然は深く心に刻み込んでもらえると思います。

今回は「良寛」「おむすびころりん」の絵本原画と童画の春・夏・秋・冬など63点を一挙公開します。

特に晩年の作品である「良寛」は、川上本人を彷彿させるような良寛が描かれており、いわば川上自身の心象風景を禪僧に託した自画像とも言える作品となっています。川上四郎は武井武雄の先輩格として、又日本童画の父として、日本童画協会の結成にかかわり、その後の活躍は目覚ましいものがありました。この展示が見る人を心のふるさとへさそい、郷愁をよびおこすそんな場になれば幸いです。

イルフ童画館 〒394-0027 長野県岡谷市中央町2-2-1

TEL 0266-24-3319(ミミズク) FAX 0266-21-1620

<http://www.city.okaya.nagano.jp/ilf/index.htm>

入館料：（括弧内は団体割引き料金です）

一般 800円（600円） 中・高校生 400円（300円）

小学生 200円（150円）※高校生とは、高等学校に準ずる学校の生徒を含みます。※団体とは、総人数が10名以上をさします。

開館時間：

◎午前9:00～午後6:00

◎休館日 毎週木曜日（祝日の場合は開館）

年末年始休館日 12/31（火）・1/1（水）

展示替え臨時休館日 4/24（水）・11/27（水）

JR中央線岡谷駅下車、徒歩5～7分 長野自動車道、岡谷I.Cから車で5～10分 \*車でお越しの方は市営駐車場（450台）をご利用ください。市営駐車場ご利用のお客様・・・最初の3時間は無料です。

### ●軽井沢絵本の森美術館

秋冬展「ファッションがかたる絵本世界—絵本原画に見る服の役割—」

第2展示館にて

会期：2002年10月18日（金）～2003年1月13日（月）

絵本の登場人物たちはどんな服を着ているでしょう？おひめさまならふわふわのドレスが思い浮かびますが、妖精や魔法使い、普通の家庭のおかみさんたちはどんな服を着ていたでしょうか。

今展では、絵本に描かれたファッションに注目して、特徴ある服装の描かれた絵本、その原画を数多く、ご紹介いたします。

服は、着ている人の身分や境遇をあらわしたり、描かれ方によっては、人物の不安感や、緊張感を伝えてくるものです。

また、子どもたちはどのような服を着せられてきたのでしょうか？絵本に描かれた子供服にも注目してみましょう。

展示構成

①身分や境遇をあらわす服（おひめさま、王さま、娘、おかみさんなど）②あなたは何者？属性をあらわす服（妖精、悪魔、魔女、天使など）③場面をあらわすファッション（安心感、不安感、など）④こどもはどのような服を着せられてきたか？このほか、「服や靴が物語のキーワードになっている絵本」（例：シンデレラ）、「世界各国の服」など、ファッションのバラエティーに富んだ絵本をご紹介します。

数々の原画や絵本を通して、工夫の凝らされたファッションの世界と、服の新しい魅力を感じていただけたら幸いです。

作品点数 約120点

併設展「歐米絵本のあゆみ展」 第1展示館にて

会期：同上

絵本の歴史、作家のプロフィールをご紹介しながら、絵本原画、歴史的絵本などを通じて「絵本の原点」を探ります。

17世紀に出版された最初の絵本（『世界図絵』）から、現在の絵本に至るまでの歴史を見ることができます。

作品点数：約70

交通：新幹線軽井沢駅、又は、しなの鉄道中軽井沢駅よりタクシー約8分上信越自動車道碓氷軽井沢ICより約15分、小諸ICより約25分  
※駐車場 200台（夏季以外無料）

軽井沢絵本の森美術館の展示に関するお問い合わせは

Phone.0267-48-3340 Fax.0267-48-2006

[curator@museen.org](mailto:curator@museen.org) <http://www.museen.org/ehon/top.html>

# 事務局からのお知らせ

## ●役員改選に伴う運営委員、監事候補の推薦について

来年度改選を控えた運営委員、監事の候補者の推薦を受け付けます。自薦、他薦による候補者を葉書または書面により2月15日(消印有効)までに絵本学会事務局にお届けください。

絵本学会役員改選のための日程は、以下の通りです。

### [絵本学会役員改選のための日程]

- 1・運営委員・監事の公募 1月中旬発行のニュースで公示  
自薦、推薦による 締め切り 2月15日
- 2・選挙管理委員会の設置
- 3・運営委員・監事の選挙 郵送による選挙 2月下旬発送  
(運営委員10名以内、監事2名) 3月15日必着
- 4・理事会による運営委員・監事候補の確定
- 5・理事候補の選出 運営委員(候補)の選挙により5名選出
- 6・会長候補の選出 理事(候補)の互選により会長(候補)を選出
- 7・会長(候補)による2名以内の理事候補推薦
- 8・会長(候補)による4名以内の運営委員推薦
- 9・会長、理事、運営委員の承認 6月定期総会

\*2003年6月の定期総会までは、現会長・理事・運営委員が業務を執行

## ●監事選出規則

1. 監事は、正会員の中から正会員の選挙によって選出される。
2. 監事候補は、改選の1ヶ月以上前までに自薦、推薦によって事務局に届ける。
3. 選挙は、2名を連記し郵送によって行う。
4. 選挙によって選出された監事は、総会の承認を得て決定する。

## ●運営委員選出規則

1. 運営委員10名は、正会員の中から正会員の選挙によって選出される。会長は選出された理事の推薦を得て、選挙にかかわりなくさらに4名以内の運営委員を任命することができる。
2. 運営委員候補は、改選の1ヶ月以上前までに自薦、推薦によって事務局に届ける。
3. 選挙は、10名を連記し郵送によって行う。
4. 選挙によって選出された運営委員は、総会の承認を得て決定する。

## ●第6回絵本学会大会(2003年度)開催のご案内

絵本学会ニュースNo.16でお知らせしましたように、第6回絵本学会大会は2003年6月14・15日の2日間イルフ童画館(長野県岡谷市)を中心に開催されます。

大会プログラムは、下記の通り予定しております。

○会場：主会場岡谷市カノラホール(岡谷市幸町8-1)

分科会会場生涯学習館(仮称／岡谷市中央1-11-1)

○メインテーマ：“絵本と絵本美術館”

○プログラム

2003年6月14日(土)◆第1日◆

13:00 受付開始

13:30 開会式

14:05 基調講演 交渉中

16:00 シンポジウム 絵本と絵本美術館

エリック・カール美術館(アメリカ)ニック・クラーク(館長)…予定

安野光雅美術館(島根県・津和野町)一大矢鞠音(館長)…予定

イルフ童画館(長野県・岡谷市)一二木六徳(名誉館長)

安曇野ちひろ美術館(長野県・松川村)一松本猛(館長)

\*コーディネーター香曾我部秀幸

18:30 懇親会

20:30 懇親会終了

2003年6月15日(日)◆第2日◆

9:00 受付開始

9:15 研究発表+作品発表

12:15 総会受付

12:30 2003年度絵本学会総会

13:30 ラウンドテーブル(分科会)開始

R1 絵本作家研究 [武井武雄の世界] コーディネーター棚橋美代子

R2 絵本と地域活動 [絵本美術館の楽しみ方] コーディネーター酒井倫子

R3 絵本受容研究 [絵本を結ぶ 絵本と遊ぶ] コーディネーター越戸一夫

15:30 閉会式

## ●オプショナル・ツアー

○イルフ童画館特別鑑賞会(6月14日・土 10:00-12:00)

○長野県の絵本美術館めぐり(6月13日・金)

Aコース 諸訪・ハケ岳コース(岡谷集合)

ハケ岳小さな絵本美術館→原田泰治美術館→小さな絵本美術館

Bコース 安曇野コース(松本集合)

絵本美術館・森のおうち→安曇野ちひろ美術館

Cコース 軽井沢コース(軽井沢集合)

軽井沢絵本の森美術館→ル・ヴァン美術館

## ●第6回絵本学会大会作品発表者募集●

○会場のギャラリーに展示コーナーを設け、応募作品を展示し、出品作家自ら制作の趣旨を発表します。

○絵本作家を目指す人たちにとって、絵本制作の原点を学ぶ絶好の機会です。是非ふるって参加してください。

○以下の要領で作品発表者を募集します。

1. 発表者の資格 絵本学会の会員であること。
2. 発表作品 未発表の絵本。単独著作でも、共同制作でも可。
3. 発表形態 判型・寸法・頁数は制限なし。
- ※原画全画面分+カラーコピー等により製本したもの1冊。
4. 発表時間 大会2日目の指定時間。
5. 応募要領
  - (1) 作品タイトル (2) 作者の氏名・年齢・住所・電話・FAX番号 (3) 所属・職業等 (4) 原画サイズ・枚数
- ※(1)～(4)をA4用紙にワープロで横書きしたものを、絵本学会事務局宛郵送してください。
6. 応募締切 2003年3月31日(事務局必着)
7. 発表者の決定 作品発表は、原則として無審査。

作品搬入の方法・発表の時間などは、5月中にお知らせします。

## ●第6回絵本学会大会研究発表者募集●

### ○研究発表募集要項

1. 発表者の資格 絵本学会の会員であること。
2. 発表テーマ 絵本および絵本に関連のある研究テーマで、未発表のものに限る。
3. 発表時間 研究発表15分、質疑応答5分。
4. 申込要領 (1) 発表テーマ (2) 発表者の氏名・年齢・住所・電話・FAX番号 (3) 所属機関・職業等 (4) 発表要旨(800字程度)  
(5) 発表の際使用する機材(スライドプロジェクター、OHP、ODP等)  
※ (1)～(5)をA4用紙に、原則としてワープロで横書きしたもの  
を、絵本学会事務局宛郵送してください。
5. 申込締切 2003年3月31日(事務局必着)。
6. 発表者の決定 ・研究発表は、原則として無審査とし、発表順等に  
については、5月中にお知らせします。  
・受理した原稿等は返却しませんので必ずコピーをおとりください。

## ●運営委員会

10月12日 運営委員会 於：日本児童教育専門学校

次回大会がイルフ童画館で開催されることを受けて、イルフ童画館から高木昭彦氏が出席。

### 議題

- ・第6回絵本学会大会について
- ・第6回絵本学会大会の組織について  
2003年6月14日(土)・15日(日)の2日間、イルフ童画館で開催することが確認され、大会実行委員長に岡谷市長林新一郎氏、副委員長にイルフ童画館館長小口謙三氏、安曇野ちひろ美術館副館長竹迫祐子氏が内定。次回運営委員会で正式に実行委員会を立ち上げ、地元組織を構成することになった。

### ・役員改選について

役員の改選にともない、推薦、選挙、理事選出などの日程が確認された。

- ・学術会議に連絡して
- ・研究費の補助について
- ・研究紀要の応募状況について
- ・機関誌の創刊について
- ・運営委員の追加推薦について

会長指命の運営委員として竹迫祐子氏が推薦された。

### ・その他

12月8日 拡大運営委員会 於：岡谷市文化会館カノラホール  
第6回絵本学会大会に向けて、岡谷市長をはじめ地元実行委員会を交えた拡大運営委員会として開催。

### 議題

- ・第6回絵本学会大会実行委員会の発足について  
会長より大会実行委員長、副委員長にあらためて大会のお願いをし  
た後、岡谷市長林新一郎氏から実行委員に委嘱状が交付された。
- ・第6回絵本学会大会について  
大会要項の確認 プログラムの検討 大会運営について
- ・研究紀要について
- ・『ブックエンド』創刊号と今後の編集体制について
- ・役員改選に伴う運営委員候補の推薦について
- ・その他